

沖縄の旬な情報と人をご紹介するラジオ番組のフリーペーパー

paperRADIO

Free

ウチナータイム!

No.35

2月

2019

映画監督／ガレッジセール・ゴリ



照屋年之

【第 353 回】 2月6日(水) 再放送 9日(土)

照屋 年之 てるやとしゆき

芸名：ガレッジセール・ゴリ。1972年5月22日沖縄県那覇市出身。

日本大学芸術学部映画学科演劇コースを中退後、中学の同級生だった川田広樹とお笑いコンビ、ガレッジセールを結成。テレビ番組を中心に活躍し、2005年には「ゴリエ」のキャラクターで大ブレイクし、「第56回紅白歌合戦」では歌手として出場。その後は俳優としても活躍の場を広げ、MHK連続テレビ小説「ちゅらさん」では主人公の兄役を好演。06年、短編映画『刑事ボギー』で監督デビューを果たす。『born、bone、墓音。』(16)は、ショートショートフィルムフェスティバル&アジア (S S F F & A S I A) 2017のジャパン部門賞グランプリ、S K I Pシティ国際Dシネマ映画祭2017でも観客賞を受賞するなど高い評価を受け、芸人、俳優、映画監督と多岐に渡り、活躍している。

ラジオの聞き方

スマートフォンで聴く場合、アプリは不要!!

パソコンと同じURLをスマホからアクセスするだけで聴けます。

<https://fm-odawara.com>

毎週水曜 19:00~20:00 再放送 毎週土曜 18:00~19:00



ハイサイ!
ウチナータイム!

FM おだわら

で検索!

FM 78.7MHz
おだわら
<http://fm-odawara.com/>



バスケットボールを2つ使う独自のスタイル「ダブルボール」また、ボールを1つ～3つまで操る事が出来る日本でも数少ないパフォーマー。日本フリースタイル界よりレジェンド表彰を受け、生きるレジェンドとして活動中。那覇オーバのオリジナルユニットとして結成された「008」メンバーの一人。CMやテレビ、イベントなどに出演中。

今回はミミックトウキョウの記事を書かせて頂きましたが、そう、その理由は今年1月末をもって一時閉店となりました。新しいエンターテイメントを創造するための前向きな閉店なので今後のミミックトウキョウに期待ですね！私自身、とても多くのことを学ばせて頂いた大切な場所なので、最後の営業日のステージに立たせて頂けたこと、本当にうれしく思います。

ミミックトウキョウという伝説的なステージのタレントとして恥じないよう、これからも頑張ります！
2019年も自分にしか生きれない「人生」という名の物語」を突っ走って行きましよう！

自分とは以前から連載でも沖縄県がMICEを推進してるよーとか書いてきましたが、遂に出来ました！
何が？

遂に沖縄県MICEのプロモーションビデオが完成しましたー！

沖縄県内で実際に観光業に従事しているMICEブレイヤー達100名が出演し、会議開始からアフターパーティーに至るまでの一連の流れをリップダブしながら繋げていきます。かなりカッコいいです！

リップダブっていうのは、歌に合わせて口パクして1つの曲をみんなで繋げていく手法で、結婚式の余興とかにも最近では使わ



メイキング動画



沖縄県MICEプロモーション

たるーの島唄コラム

第二十三回 シマウタと「笑い」

昔から「笑う角には福来たる」と言う。笑うことは健康や幸福を招くと言われている。「嬉しいから笑うのではなく笑うから嬉しいなるのだ」と言う方もいる。そんな笑いをテーマにしたシマウタを見てみよう。

最初に取り上げるのは登川誠仁さんの「豊節」だ。

朝夕笑い福い 福ゆうち招ち
年毎の繁盛 お願さびら

一日中笑いを絶やさず喜びにあふれることが福を招かするように毎年の繁盛をお願いしたいものだ、という意味。繁盛を招くのは日々の笑い喜びだということ。どんな喜びなんだろう。

笑い声だ。深い森から木を切り出すのは危険な重労働だった。笑いはある時は森の魔モノ除けでもあり、ある時は人々の士気を鼓舞するものだったのかも知れない。笑うと勇氣や元氣が湧き出し続ける、確かにそうだ。

さて琉歌には笑いはどう扱われているだろうか。琉歌集を調べると意外だった。

うら枯れていきける百草の中に
笑て咲く菊もすれていきゆさ

全ての草が枯れていく中で花を咲かせている菊も盛りが過ぎていこうとしている、という意味。

実は人間が「笑う」というウタは少なく「花が咲いている」意味の「笑う」というウタの方が多い。おそらく花に人を重ねているからだろう。

こうして見ると沖縄のシマウタにとって笑うことは、魔除けであり人々を勇氣付け、心を一つにする力となる原動力だ。戦争という悲しみに巻き込まれて皆が落ち込んだ時にも、沖縄の人々は歌い踊り「笑い」で励ます人々もいた。シマウタが沖縄の笑顔を守ってきた。

だがしかし沖縄の人々にも笑って済まされなことがある。押し付けられた基地による悲しい被害や事件だ。それに対して沖縄の方々は怒って当然である。

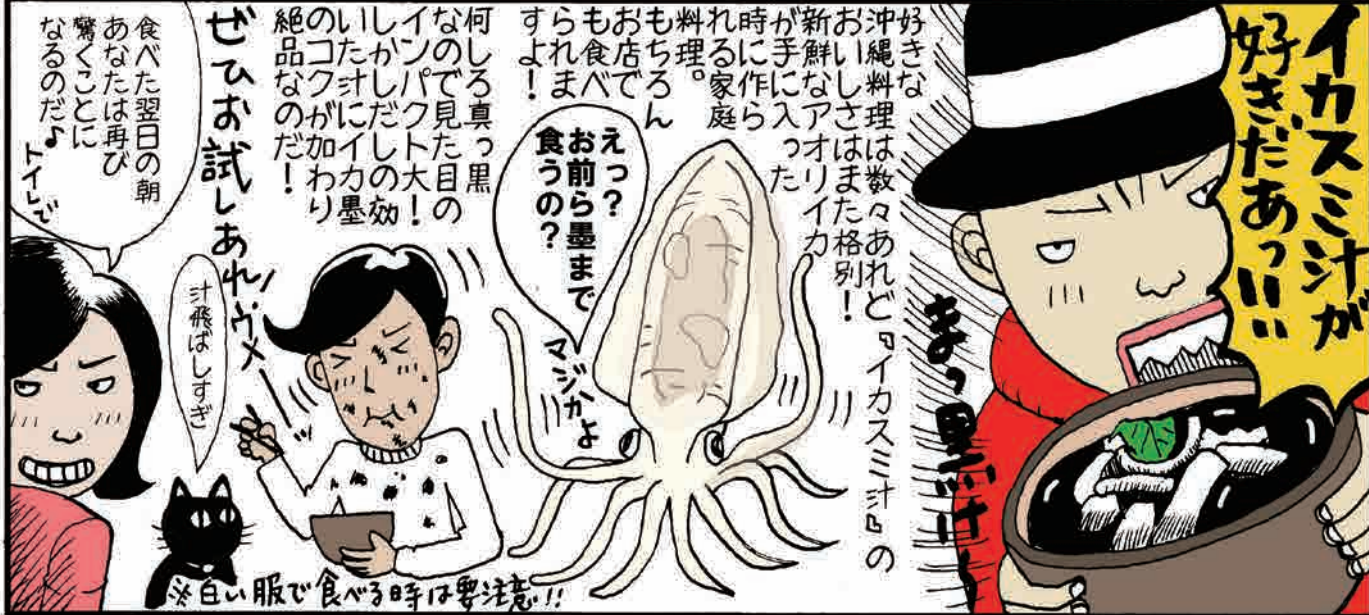
ふと思う。私達はやっぱりなものを沖縄に押し付けておいて笑って暮らしているのではないか。テレビの人気キャラ、チョコちゃんに「ポーっ」と生きているじゃーねーよ」と怒られそうだ。

他人から奪った笑顔に福は来てはくれない。たるー(関 洋)

宮崎県生まれ、広島在住、琉球民謡協会教師。ネットでおなじみの「たるーの島唄まじめな研究」の著者。島唄の訳と解説をして10年！広島で三線教室やDOC果報バンド」を主宰。

ちんだみ日知り

イカスミシ汁 田所ヨシユキ



空飛ぶあつちゃんの

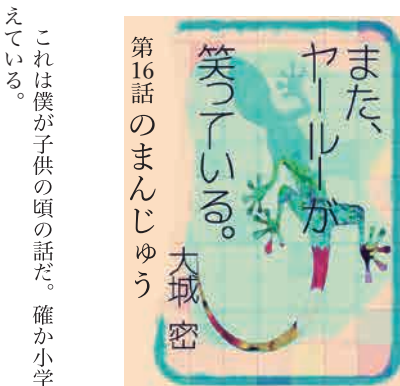
自由発想沖縄料理

く食は笑顔を選び心を紡ぐく

ムーチービーサに玄米ドリンク（黒糖・生姜入り）をどうぞ!!

高山厚子

第5回



おおしるひそか
那覇市出身、東京都在住。
スマホ小説大賞 2014にて『私アプリ』が角川ホラー文庫賞を受賞。第2回ノベルスタ大賞にて『EGGMAN』が準大賞を受賞。2017年『下町アパートのふしぎ管理人』シリーズが角川文庫より刊行されている。

これは僕が子供の頃の話だ。確か小学一年生のことだったと覚えている。

祖父母が暮らしている本家でお祝い事があった。年の離れた僕の従姉妹である、ミサ姉ちゃんの結婚が決まったのである。

「なんて書かれているの？」
その文字は小学一年生の僕でもなんとか読める文字だった。「いや、分らない……」
僕は咄嗟に嘘をついていた。
「ねえ、お母さん、これへんだよ。なんて書いてあるの？もしかして当たり？」
弟は無邪気に「(のまんじゅう)ではない、(のまんじゅう)を驚おみにして母の元へ走っていった。明らかに違う文字が書かれていた。

僕の見え方、お兄ちゃん、これなんか違うくない？」
僕に聞いてきたのは弟だった。

「……え、何これ」
さつきまではにこやかにしていた母の顔が一気に青ざめる。僕が見たその「(のまんじゅう)」には赤い文字で「(死)」と書かれていたのだ。

「ねえ、なんで書いてあるの？ 教えてよ！」
弟は口元に手を当てたままだ動かなくなっていました。母の元から、宴会が行われている広間へと走る。自分が当たりを持つていると勘違いしているのか、興奮している。

弟が持っていたそれに大人たちの視線が集中する。騒いでいた大人たちの声が一気に静まりかえる。
「それ、誰が持ってきたんだ……!」
ミサ姉ちゃんのお父さんが声を荒げた。

手土産はどちらの親戚も持ってきていた。だが、「(死)」と書かれていた「(のまんじゅう)」を持ってきた人物は名乗り出ることはなかった。
それからしばらくして、ミサ姉ちゃんの婚約は破談になった。

理由は単純だ、親戚同士の疑心暗鬼が原因だ。何かの手違い。そんな風に思えるような事件ではなかったということだろう。

ただ僕は知っている。あの「(のまんじゅう)」を誰が持ってきたのか。
僕はその箱が置かれる瞬間を偶然見ていたのだ。大人になって思い返してみれば分かる。よくあること。ただの心愛わりだ。

ミサ姉ちゃんは土壇場のところで、あのときの結婚が嫌になったのだ。
僕はこのことをまだ誰にも話していない。

沖縄をテーマとした3分で読める読み切り超短編小説シリーズ。今回は「ポイント」お楽しみに！

『山秀で水跳ねかえる羽地村 バナナも寒く愛に潤う』
これは、沖縄復帰前、時の文部大臣・渋沢敏三氏と共に我が家を訪れた賀川豊彦氏の句である。旧羽地村（はねちそん・現在名護市の一部）は、沖縄一の米どころであった。春には緑の苗が水面に映え、秋には黄金の稲穂が夕焼け空の下、頭を垂れていた。まだ、多くの沖縄の地の生徒が芋弁当の頃だ。

ムーチービーサの頃（寒い時期）になると、祖母が良く作ってくれたのが、大きなハガマ（米2升炊きの鍋）に、多量の水を入れ、玄米をわずか2〜3合入れ、コトコトと長時間、弱火でトロリとなるまで煮て、黒砂糖と生姜を効かせた熱々の玄米ドリンクだった。火鉢を囲みながら、ごはん茶碗に入れたこの熱々のねっとりした飲み物、どちらかといえば柔らかく、おかゆのようなものだが、黒砂糖の甘み、ショウガの香りが、体の中に染み込みホッとしたものだだった。

風邪をひいて学校を休みがちだった私には、美味しいおやつであり、体の芯まで温まるものであった。東京に出てから約50年、私が今でも、よく冬場に作る一品です。子どものおやつ用にも。おもてなしのウェルカムドリンクとして。そうそう、この冬は、泡盛をチョイ足したら、「これは、うまい！体が温まる」と、人気であった。

皆さんも、沖縄の温かい太陽を思い出しながら作ってみてね。今はミキサーなる便利器具や炊飯器でもできるから簡単だよ。

レシピを紹介しましょ！

①玄米を洗って、水を加えミキサーにかける。

祖母から伝承の健康長寿の一品！ 泡盛にもOKよ～！



生姜ドリンクとプルフラワー



冷やしても美味しい

高山厚子 たかやまあつこ
1943年沖縄県旧羽地村（現在名護市生。琉球大学卒、沖縄料理研究家、修学旅行アドバイザー、執筆・講演活動・料理教室（自宅&出張）等で全国を飛び回る。
NHKワールド・あさイチ等テレビ出演多数。
・琉球大学同窓会関東支部長
・著作「緑のカーテンの恵みを食べよう」他